



Title	巻頭言
Author(s)	川田, 学
Citation	子ども発達臨床研究, 12
Issue Date	2019-01-31
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/72757
Type	bulletin (other)
File Information	020-1882-1707-12.pdf



[Instructions for use](#)

巻頭言

本特別号は、2018年3月17日に北海道大学で開催されたフォーラム「異年齢・異学年から子どもの育ちと学びを考える：『あこがれ』と『いたわり』を越えて」の内容をもとに、より一般的な理解を促すために実践報告を整理し、研究者による理論的課題の提示を加えたものです。本号が発行される頃はまだ一面の雪景色と思いますが、春の訪れを願い表紙は福寿草カラーを選びました。

さて、2015年度から、科学研究費の課題として『異年齢期カップリングの発達学：子どもの生きづらさを超えるための学際的協働』を推進して参りましたが、2017年3月発行の本紀要第10号（特別号）『未完のムクドリ：多世代多様な場で起きていること』に引き続き、今度は保育園～高等学校までを視野に入れ、「異年齢」の世界では何が起きているかを考察していきました。

本号は、2部から構成されています。「第I部 異年齢の世界からの実践報告」では、保育園、幼稚園、そして小学校での異年齢・異学年の保育・教育に関する実践が紹介されています。続く「第II部 『異年齢』への理論的視座」では、それぞれ言語発達論、乳幼児発達論、学校経営論の研究室を担う研究者が、それぞれの専門分野の見地から「異年齢」という問題系を分析・考察しています。特に、今回は教育行政学を専門とする研究者から、中学や高校での事例も含めて制度論的考察を行っていただいたことが、上記の科研費課題としても有意義なものとなりました。

フォーラムの登壇者ならびに参加者の皆様に、改めてお礼申し上げます。

（川田 学）

* * *

私たちの子ども発達臨床研究センターでは、2011年度から「研究プラットフォーム委員会」という一風変わった組織をつくり、現代社会における「人の育ち」にまつわる諸矛盾を解きほぐす学際的かつ実践的な共同研究を継続してきました。本号も、そのプロジェクトの延長線上に位置づくものです。

本号以前には、以下の成果も刊行しておりますので、あわせてご参照いただけましたら幸いです。北海道大学図書館ホームページで、「資料を探す」→「HUSCAP」→「教育学研究院」と進むと、ダウンロードすることができます。※一部電子版公開を控えている論文もあります。

- ・2012年「遊ぶ・学ぶ・働く：持続可能な発達の支援のために」（シンポジウム報告書）
- ・2013年「『生きづらさ』を越えて」（シンポジウム報告書）
- ・2014年「Development 概念の転換：支援の背後にある困難性を探究する」『子ども発達臨床研究』第6号（特別号）
- ・2017年「未完のムクドリ：多世代多様な場で起きていること」『子ども発達臨床研究』第10号（特別号）

※本紀要は、科学研究費補助金・基盤研究(B)「異年齢期カップリングの発達学：子どもの生きづらさを超えるための学際的協働」（課題番号：15H03105）による助成を受けて発行された。